

山行報告：瑞牆山パノラマルート カンマンボロンを訪ねて

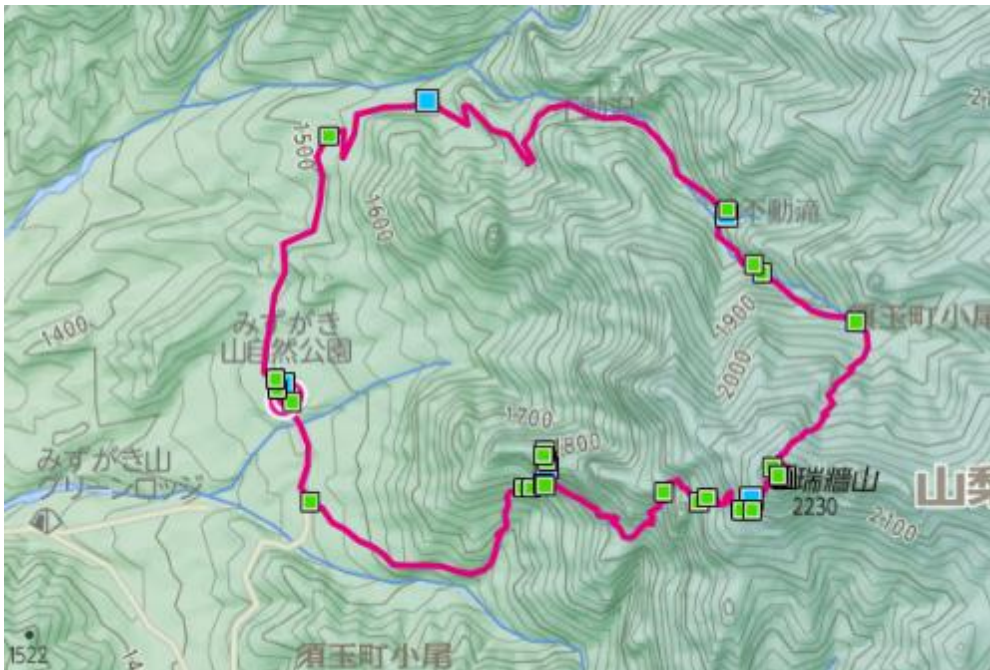
【山 域】 奥秩父

【日 程】 2017年6月24日（土）日帰り 【天候】 晴れ（高曇り）

【参加者】 CL 柘植、加藤、小俣（記録）

【記 録】

天候が心配で日帰り無理の無い所ということで、甲斐駒八丁尾根から瑞牆山パノラマコースへ変更。滝本さんも参加予定でしたが、残念なことに出張帰りでお風邪を召されたとのことにて不参加、3人で行ってきました。



カンマンボロンとは聞きなれない不思議な言葉・・・梵語で大日如来を現すそうです。岩壁に穿たれた文字？模様？がまるで梵字に見えるそうです。弘法大師が彫ったとも伝えられ崇められてきたとか・・・ 不思議な文字を見に出かけることにしました。

中央道須玉 IC で降り、塩川ダムを目指す。ダムで左折（右折で増富温泉）黒森鉱泉経由でみずがき山自然公園へ向かう。自然公園駐車場に車を止める。マットを担いだクライマー達をたくさんみかける。来た道を少し戻り、路肩に駐車場の場所の案内板のある歩道から入山 7:50。 2 俣→4 差路→5 差路→5 差路と歩道が分かれるところを上方へ向かって直進、小高い所に木に巻かれた「注意書き」を見つけ登山道の方に誤りがないことを確認 8:05。 パノラマコースに入る。2000 年より前の小俣の地図になく、最近の地図にも表記のないパノラマコースは自然公園が作られた 2002 年ころに開拓された道なのだろうか？その後廃道になったようだが、クライマー御用達の道らしく踏み跡はしっかりついてる。まずは、天鳥川の左岸沿いにゆるやかに登って行く。岩や木につけられた赤ペンキや赤テープが丁寧につけられており迷うことはない。小沢を渡りトラバース道を行くと、左の岸壁にステンレスプレート案内板が見つかる 8:12。ここから 50m ほどでカンマンボロンの取りつきとネット情報、確かに上方に向かって踏み跡あり。岩壁まで登り、基部を右へトラバース、庇のある巨大岩壁の真下へと来れば、ネットで見た岩の隙間を確認できた。ここが、カンマンボロンへの入り口。リュックをデポ、体を横にして岩の隙間を抜けると目の前に「カンマンボロン」と刻まれた岩が現れた！「う～ん、不思議だ！」

ホント人為的に彫られたように見える。でも我々の推理が働き「遥か上空の岩壁の庇の先端からの滴が刻まれた岩の上に当たるのでは・・・」と。30分ほどしばし感激に浸り休憩(8:40~9:10)。元へ戻り、再び登山道をマークを拾いながら登る。



自然公園からの出だしは樹林帯のなかの緩やかな道



だんだん傾斜が急になってくると



自然の神秘 カンマンボロン



下のテラスからカンマンボロンを見上げる



カンマンボロンから先は巨岩地帯を縫って進む



大ヤスリ岩を見上げる



大ヤスリ岩を見下ろす



瑞牆山の山頂

シャクナゲ群生地(9:20)を過ぎ、ロープのある急登を登る。ステンレス案内板が現れ、ルンゼ状の急斜面を登るとコルに出る 9:55。巨岩の間から東の展望が開ける。展望を楽しみながら木陰を求めしばし休憩(10:00~20)。更に登ること 15 分で一般道と合流。頂上 11:00 到着。展望を楽しみ、昼食を食べる (~11:20)。記念撮影後、不動滝コースへ下山。ひたすら下る。沢音が聞こえてきて、傾斜が緩くなって平坦地に着くと不動沢本流にそそぐ支流に巨大な滝がかかっていた。花崗岩の巨大な滑り台状の磨かれた滝である 12:25~35。沢沿いの道を下り不動沢駐車場に到着。あとは自然公園の駐車場まで戻るのみ。1:45 下山。



不動滝



自然公園芝生広場から瑞牆山を見上げる

梅雨の晴れ間を無駄なく 1 日を過ごせたことに感謝。ありがとうございました。

報告担当：小俣